

(第1回 午前)

2019(平成31)年度入学試験問題

国 語

(試験時間：50 分)

《注 意》

- (1) 問題は ～ まであります。
- (2) 解答はすべて解答用紙に書いてください。
- (3) 受験番号、氏名を忘れずに書いてください。
- (4) 解答用紙のみ回収します。
- (5) 解答に際して、句読点、符号などが含まれる場合には一字分として数えます。

城 西 大 学 附 属
城 西 中 学 校

一

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

A君は勉強は好きでないけれど、部活動に対しては^①自負心をもってがんばっていました。今日は試合前のとくにきびしい練習で、さすがのA君もいつも以上に疲れを感じています。帰ってきて着替える気力もないまま、リビングのソファにぐったりしていました。そこに父親が帰宅しました。じつは父親も会社で上司に叱られ^{しか}（それは理不尽と思えるほどでした。きつと上司も虫の居所が悪かったのでしょう）、なんとも言えない疲弊^{ひへい}をかかえての家路でした。

さて父親が家に帰ると、息子がリビングから【X】のない返事をしています。ふだんなら、さほど【X】にならないのですが、今日にかぎって横柄^{おうへい}な態度に感じられ、「このまえ、考えると言っていた、進路のことはどうなったんだ」と、口について出てしまいました。息子は息子でいらつとしたようす。「なんでいま、そんなこと聞くんだ」とばかりに、にらみ返します。そのあとどうなったかは、ご想像のとおり。

こういったささいな口論^{こうろん}はよくありますが、心理学的には不幸な状況といえます。^②疲労は相手に対する信頼を下げ、想像力を乏^{とほ}しくし、未来について考える余裕を奪い、「どうにでもなれ」という気持ちにさせるのです。疲れているときは、疲労を回復することが第一でしょう。この場合の父親と息子も、両者とも一寝入りしてから顔をあわせるべきだったのです。

疲れていると、私たちは未来について考える余裕がなくなります。サウス・ダコタ大学の王^ワ暁^{シヤオタイエン}田とロバート・ドヴォラクは、これを実験で検証しました。

参加者はまず、自宅用の血糖値測定器（指先に針を刺して少量の採血をして測定する装置）を使って、^③血液中のグルコース（ブドウ糖）濃度を測定しました。つぎに「賞金を受け取るなら明日一二〇ドルもらうのと、一ヵ月後に四五〇ドルもらうのとどちらがいいか」という^④「遅延割引課題」（異時点間の選択課題）を七問解きました。

ここがユニークなところで、そのあとにソーダ水を飲んでもらいました。つまり、疲労を回復してもらおうというわけです。このとき、ふつうのSpriteを飲む群と、糖分フリーのSprite・ゼロを飲む群の二条件がありました。もちろん、参加者はどちらを飲んだかを知り

ません。一〇分後、グルコース濃度をふたたび測定し、遅延割引課題をさらに七問やりました。ここでちょっと複雑ですが、「割引率」という値を算出しました。割引率が小さいほど、がまん強いことになります。

⑤その結果、糖分フリーのスプライトを飲むと割引率が上がったのに対して、糖分入りスプライトを飲むと割引率が下がることがわかりました。つまり糖分を補給して、疲労が回復したことで、将来のためにいますぐ賞金をもらうことをがまんできたのです。疲労は意思決定を現在志向にシフトさせ、疲労回復は気持ちを未来に向けるのです。

ただし、糖分が鍵とはいえ、甘いものを一気に食べてはいけません。血糖値の急激な上昇は、その反動で急激な低下を招くだけで、^⑥もとの木阿弥^{もくあみ}です。

人が未来に向けてがんばることは、自制心（セルフコントロール）と関連します。その自制心は、疲労にすこぶる弱いことがわかっています。フロリダ州立大学の社会心理学者ロイ・バウマイスターは、それを「決定疲れ」（デシジョン・ファティグ）とよびました。疲れていると、自分を制御しにくくなるのです。冒頭のエピソードがあらわすように、誰しも心当たりがある現象だと思います。

⑦ミネソタ大学のキャサリン・ヴォスらの実験を見てみましょう。

選択条件の参加者は、Tシャツ、香りつきろうそく、シャンプー、キャンディ、ソックスなどの商品について、二つずつ比較していきました。たとえば「Aブランドの赤いTシャツと、Bブランドの黒いTシャツでは、どちらが好きか」というぐあいです。参加者は二九二の選択をえんえんとせまられ、最終的には、Tシャツと香りつきろうそくを比較するにいたります。率直に言って、めんどろで悩ましい課題です。実験者から「その回答をもとに、実験の最後にプレゼントします」と言われたものの、これはひどく疲れる作業でした。

一方、非選択条件の参加者は、同じ商品リストのなかから、自分がこの一年間で使ったことがあるものに丸をして、その頻度^{ひんど}を評定していくだけでした。作業時間は選択条件と同じでしたが、それほど考えこむ課題ではないし、疲労感はずんぜんちがっていました。

商品の課題が終わると、参加者はべつの部屋に案内されます。机の上には小さな紙コップが二〇個並べてありました。オレンジジュースと酢と少量の砂糖を混ぜた、まずい飲み物です。

実験者から「一カップ（二九ミリリットル）につき五セントが支払われます」と言われ、参加者は何カップ飲むことができるかに挑戦しました。報酬ほうしゅうがあるとはいえ、参加者にはためらいの表情が浮かびます。

結果はどうなったでしょうか。

選択条件の参加者は平均わずか二・〇六杯で断念したのに対して、非選択条件の参加者は七・六七杯も飲むことができたのです。めんどくさいことに取り組みすぎて、疲れてしまうと、いやなことをがまんする自制心がはたらかず、すぐに放棄ほうきしてしまうのです。まさに疲労は大敵というわけです。

（串崎真志『心は前を向いている』）

問一 ― 部①「自負心」とありますが、同じ意味の四字のカタカナ表現にあらためて答えなさい。

問二 【X】部に共通して当てはまる漢字一字を答えなさい。

問三 ― 部②「疲労は相手に対する信頼を下げ」とありますが、

(1) 「A君」と「(A君の)父親」はそれぞれなぜ疲労を感じていましたか。それぞれ簡潔に説明しなさい。

(2) 二人は口論にならずにすむためにはどうすればよかったと述べられていますか。二十字以内で本文中から抜き出して答えなさい。

問四 ― 部③「血液中のグルコース（ブドウ糖）濃度を測定しました」とありますが、これは人間のどのような力に関連していますか。もっともふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 現在の充実のために将来を先取りする力。

イ 将来のために現在の苦勞をがまんする力。

ウ 将来の苦勞を先読みしてそれに備える力。

エ 現在の利益を先延ばしして見過ごす力。

問五 ―― 部④「遅延割引課題」といえるものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 日々の家庭学習に取り組み忘れないか、毎日家で連絡ノートをよく確認してから家庭学習を始める。

イ 登校前にニュースを見て電車の遅れがないかを調べ、遅れがある場合は早く登校できる経路で登校する。

ウ 今の筋力のまま技術を身につけていくより、もっと筋力をつければさらに技術力がつくと考え、今はまず体をきたえる。

エ 将来になりたい職業について中学生の早い段階からよく調べ、それに向けた専門的な勉強だけを一生懸命にがんばる。

問六 ―― 部⑤「その結果」とありますが、その内容としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 糖分入りの飲料によってグルコース濃度が高くなった参加者の割引率は下がった。

イ 糖分なしの飲料によってグルコース濃度が低くなった参加者の割引率は下がった。

ウ 甘みを強く感じられれば感じられるほど、割引率は好ましくなることがわかった。

エ 数値上は変化はないが糖分のある飲料の方が気分転換できることがわかった。

問七 ―― 部⑥「もとの木阿弥」の意味として正しいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 貴重なものも、価値のわからない者には無意味であること。

イ 同じ頼るならば、勢力のある人のほうがよいということ。

ウ 自分の努力や周囲の助けが少なくて、何の役にも立たないこと。

エ いったんよくなったものが、再びもとの状態に戻ることに。

問八 — 部⑦「ミネソタ大学のキャサリン・ヴォスらの実験を見てみましょう」とありま

すが、

(1) これはどのようなことを調べるための実験ですか。次のようにまとめた場合、それぞれの空らん部に当てはまる言葉を本文中から三字以内で抜き出して答えなさい。

・人間が あ を感じているとき、 い はどの程度働くのかということ。

(2) その結果としていえるものを次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 非選択条件の参加者は選択条件の参加者の三倍以上の量の飲み物を飲んだ。

イ ひどく疲れる作業をした実験参加者の報酬の平均はおよそ一〇セントだった。

ウ 比較的疲れの少ない作業をした実験参加者の報酬の平均はおよそ三〇セントだった。

エ 作業の内容を問わず、人によっては飲料を七・六七杯も飲むことができた。

オ 全ての参加者の中には、においが苦手で飲料を一杯も飲まない人もいた。

カ いやなことをがまんする力は、高いストレス状態になるほど上昇する。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

音楽室の戸を開けた瞬間、その静寂を揺さぶる音がした。足もとから這いあがってくる低音。それがクラリネットの音色であることに、千鶴は室内を見まわしてから気がついた。

クラリネットだけじゃない。机を前方に積みあげてスペースを空けた室内には、想像以上に多くの部員がいた。トランペット。フルート。打楽器。それぞれのパートごとに練習している。教室のあちこちから響く多彩な音。その音と音とが絡みあい、もつれあい、

「ア」協和ながらも

「見学？」

教室の隅で新入部員の指導をしていた顧問の先生が、千鶴としほりに気がついた。

ベートーヴェンみたいな髪かみの男の先生。でも、顔はあそこまでやばくない。

「あ、はい」

「よろしくお願いします」

あわてて頭をさげたふたりに、「入っておいで」と手招きする。ふたりが足を踏み入れるなり、先生はぱんと両手を打って部員たち呼びかけた。

「一年生が来たから、ちょっと聴かしてやって」

たちまち、パートごとの小さなかたまりがほぐれ、教室の中心に全員が集合した。先生の指揮棒にたぐられて、その大きなかたまりから蒸気のようにメロディが立ちのぼる。最初はふんわりと。ひとつ、またひとつと音が増え、メロディが膨らむ。膨らむ。膨らむ。ひとりひとりの奏でる楽器が、重なることでその音色を深め、引きたて、美しいハーモニーを育てていく。

砂浜の波が引いたあとで足もとの砂がすつと動くみたいに、千鶴の心は音のほうへと引きよせられた。曲が終わったときにはすっかり感動していた。

なんの曲かもわからない。上手な感想だってひと言も言えなかったけれど、ベートーヴェン先生は「またおいで」と笑ってくれた。

「なんか、すごかったよね」

「うん。すごいよね、吹奏楽部。っていうか、中学生ってすごい！」

「ほんと、レベル高かった。小学校の鼓笛隊こてきたいなんて目じゃないね」

「目じゃない、目じゃない」

「うちらも練習したらあんなふうになれるのかな」

帰り道、野球部のときとは打ってかわって、ふたりのテンションは高かった。千鶴の感動がしほりに、しほりんの興奮が千鶴に乗りうつり、ふたりして「イ」制限に高まっていくみたいに。

「決めた。あたし、吹奏楽部に入る。千鶴も一緒にやろうよ」

しほりに誘われるまでもなく、千鶴の気持ちも吹奏楽部へ傾かたむいていた。

放課後の音楽室にいる自分を、千鶴はたやすく想像できた。すぐに上達するほど器用じゃなくても、まじめに練習を積んで、着実に成長していく自分。仲間や先輩たちともそれなりにうまくやっていく。ii イメージできる。できすぎる。

「あのね、わたし……中学生になったら、変わりたいって思ってたんだ」

千鶴は初めてしほりに打ちあけた。

「今までとはちがう自分になりたくて。吹奏楽部は、すごくいいと思うし、すごくやってみた

い。でも、それじゃ、今までのわたしと一緒に気もして……」

うまく言えない。じれったく黙だまりこむ千鶴の横顔を、しほりがじっと見つめている。千鶴が本気するとき、しほりんはいつもおなじくらしいの本気で何かを返そうとしてくれる。ちょうどいい言葉が見つからなくても、見つけだすまであきらめない。

^④ けれど、この日は早かった。

「うん」

胸もとのスカーフをのぞきこむように、しほりんはこっくりうなずいて言ったのだ。

「わかるよ。千鶴の気持ち」

「え」

「あたしも、そんなふうと思うことあるし」

「しほりんも？」

「うん。でも、それでもあたし、^⑤千鶴は千鶴らしいことをしたほうがいいと思う」

「そうかな」

「わざと自分らしくないことをするより、千鶴は千鶴らしいことをして、今までの千鶴以上にそれをがんばって、その先に、今までとちがう千鶴がいるんじゃないのかな」

千鶴は千鶴らしいことをして、今まで以上にそれをがんばって、その先に、今までとちがう千鶴がいる――。

千鶴はその言葉を吸いこんだ。とたん、^⑥道のむこうに広がる夕焼け空が朝焼けみたいに光り方を変えた。

「うん。そうかも。そうならいいな」

すうっと肩から力がぬけた。

「ありがとう、しほりん。わたし、決めた。明日、仮入部届けもって、ヴェンに会いに行くよ」

「あたしもヴェンに会いに行く」

「わたしのヴェンに？」

「あたしのヴェンだよ」

顔を見合わせたふたりの笑いがはじける。^{いさお}勢いあまって千鶴が駆けだすと、しほりんが「待てーっ」と追ってきた。

だいぶ足になじんできた通学路に響く、スタツカートの足音。

ふたりのスカートをなびかす風は、いつしか五月の山吹色に香っていた。

^⑦鈍行列車でもかまわない。

わたしはわたしの速度で行こう。

その先にはきつと新しい、見たことのない景色が広がっているはず。

(森絵都『クラスメイツ〈前期〉』)

問一 本文中の「ア」、「イ」には、打消しの意味の漢字一字が入ります。自分で考えて、それぞれ答えなさい。

問二 本文中の i に当てはまる言葉としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 一般的 イ 平面的 ウ 重層的 エ 初歩的

問三 — 部① 「でも、顔はあそこまでやばくない」とあるが、それはどういうことですか。次のア～エの中からふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア ベートーヴェンのような顔ではないということ。
イ 髪の毛もそこまで言うほど、そっくりではないということ。
ウ ふつうの人よりも苦手な顔ではないということ。
エ どちらかというと、好みの顔だということ。

問四 — 部② 「たぐられて」の本文中の意味としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 求められて
イ 振り回されて
ウ ほぐされて
エ 引き寄せられて

問五 — 部③ 「砂浜の波が引いたあとで足もとの砂がずっと動くみたい」とありますが、それはどういうことですか。もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 気づいたら演奏にのめり込み、^ぬ抜け出せなくなっていたこと。
イ 演奏を聞いていたら、自然と心が^{うば}奪われていたということ。
ウ 演奏のレベルが高いので、ついていけなくなっていること。
エ あまりに美しい演奏に感動し、入部を決めたということ。

問六 本文中の ii に当てはまる言葉としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ありありと イ まずまず ウ それなりに エ 少しだけ

問七 ― 部④「けれど、この日は早かった」とありますが、それはなぜですか。その理由としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア じれったくだまりこんでしまった千鶴を励まして、早く落ち着かせたかったから。

イ しほりん自身も小学校の時に千鶴と全く同じ経験をしたことがあったから。

ウ うまく言葉にできない千鶴の気持ちが手にとるようにわかったから。

エ いつもよりも明るくふるまうことで千鶴の不安を取りのぞこうと思ったから。

問八 ― 部⑤「千鶴は千鶴らしいこと」とありますが、千鶴は自分ではどのような活動をしていることを「自分らしい」ととらえていますか。本文中から一つづきの二文をさがし、はじめの五字を抜き出して答えなさい。

問九 ― 部⑥「道のむこうに広がる夕焼け空が朝焼けみたいに光り方を変えた」とありますが、このときの千鶴の気持ちの変化の様子を本文の内容を踏まえて、くわしく説明しなさい。

問十 ― 部⑦「鈍行列車」とありますが、このときの千鶴の心情としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 急行列車よりも、鈍行列車の方がきれいな景色をじっくり見ることができるので、のんびりだけど、着実に成長していけるという自信を持っている。

イ 本当は野球部にあこがれていたが、今の自分に合っているのは吹奏楽部だと言い聞かせ、すぐに変わることができない自分をなぐさめている。

ウ 親や先生になんと言われても、しほりんだけは味方でいてくれることに感謝し、自分のことを理解してくれる友達のありがたさを心から実感している。

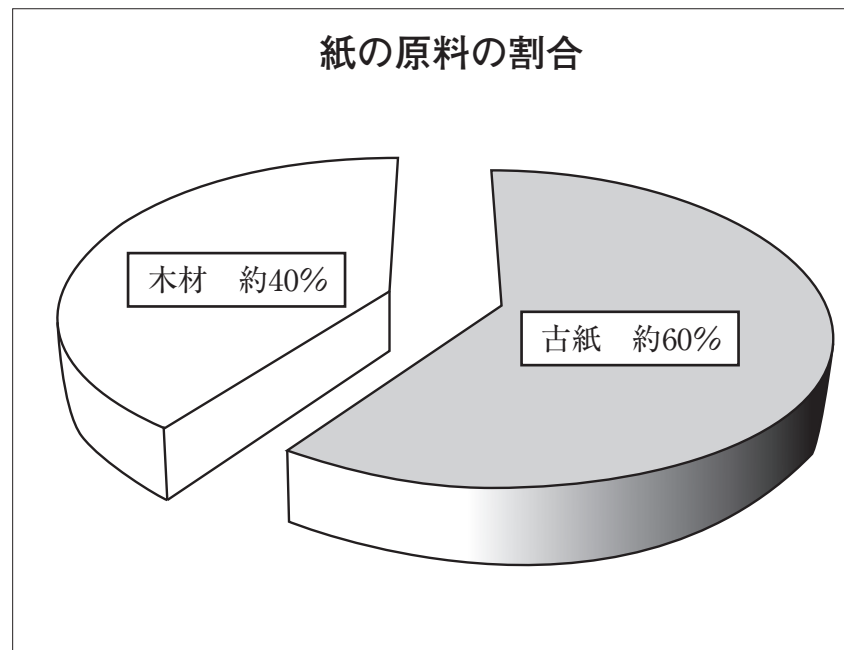
エ 中学生になって急に自分を変えるのではなく、今やりたい吹奏楽を一生懸命やることで、少しずつ自分を変えていこうと決意している。

問十一 本文中に千鶴の気持ちとして **今までとはちがう自分になりたくて** とありますが、あ

なたは城西中学校の中学生になったら、どんな自分になりたいと考えていますか。解答らんに合うように答えなさい。その上で、そう考えた理由をくわしく説明しなさい。

三

次のグラフ・分類表を見てそれぞれの問いに答えなさい。



※紙の原料になる木には、植林された木、一度使われた古木、板や柱を作った残りの部分の木などがある。

※古紙を使って紙を作ると、資源の有効活用やゴミの減量化、木材で作るよりも少ないエネルギーですむなどの利点がある。

【洋紙のなかま】

- | | | | |
|---|---------|---|--------------------|
| ① | 新聞巻き取り紙 | ： | 新聞紙となる紙 |
| ② | 包装用紙 | ： | 包み紙や紙袋など |
| ③ | 印刷情報誌 | ： | 本やカレンダー、はがき、ポスターなど |
| ④ | 衛生用紙 | ： | トイレトペーパー、ティッシュなど |
| ⑤ | 雑種紙 | ： | 建材や食器などに加工して使われる紙 |

【板紙のなかま】

- | | | | |
|---|--------|---|----------------------|
| ⑥ | 段ボール原紙 | ∴ | 段ボール箱を作るための紙 |
| ⑦ | 紙器用板紙 | ∴ | 紙箱を作るための紙 |
| ⑧ | その他の板紙 | ∴ | 巻き芯や紙筒、ファイルケースに使われる紙 |

問一 リサイクルされた紙を原料にしているのは、作られる紙全体の約何割ですか。

（解答は算用数字でも漢数字でもかまいません。）

問二 紙の原料のおよそ四割を占めているものには、たとえばどのようなものがありますか。

グラフや分類表の中から一つ抜き出して答えなさい。

問三 「板紙のなかま」の特徴を次のようにまとめた場合、（ ）にあてはまる表現を五字で自分で考えて答えなさい。

・ 文字や絵を書くための紙より（ ）という特徴がある。

問四 次の紙は、右の分類表の①～⑧のどれに当てはまるといえますか。記号（番号）で答えなさい。同じ記号を何度用いてもかまいません。

- | | | | | | |
|---|--------|---|--------------------------|---|---------|
| ア | 雑誌 | イ | 「ふすま」や障子 ^{しょうじ} | ウ | ラッピング用紙 |
| エ | お菓子の外箱 | オ | 年賀状 | | |

問五 「紙」という字を用いたことわざや慣用表現を一つ答えなさい。

